

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会 第5回議事録

日 時 令和元年12月18日（水曜日）午後6時30分～午後8時30分
場 所 武蔵野市役所413会議室
出席者 玉野委員長、深田副委員長、佐藤委員、青木委員、寺島委員、小島委員（名簿順、敬称略）
欠席者 なし
傍聴者 3名

<次第>

- 1 開会あいさつ
- 2 議題
 - (1) 報告事項
 - ① 第4回評価委員会を踏まえた評価報告書における評価の枠組み
 - ② 地域別人口動態の報告
 - (2) 武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会 提言の振り返り
- 3 今後のスケジュール
- 4 閉会

<配布資料>

- 資料1 第4回評価委員会を踏まえた評価報告書における評価の枠組み
資料2 コミュニティセンター立地地域別人口動態
資料3 武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会 提言（概要版）
資料4 地域フォーラム開催記録・予定
資料5 コミュニティ未来塾むさしの説明資料
当日配布資料1 主要事業「つどい」
当日配布資料2 地域活動をしている人たちにスポットライトを当てるWebメディアを作りたい！
当日配布資料3 傍聴者からの意見書

<議事録>

1 開会あいさつ

【委員長】 第5回コミュニティ評価委員会を始めたいと思います。まずは事務局より資料の確認をよろしくお願い致します。

【事務局】 本日もよろしくお願い致します。資料の確認をさせていただきます。資料1、資料2、資料3はA3の資料です。資料4はA4資料で、資料5はA4ホチキス留め資料となっています。また、当日資料1点目として、左上に「主要事業「つどい」と記した資料が、2点目として「地域活動をしている人たちにスポットライトを当てるWebメディアを作りたい!」というチラシがあります。さらに、前回傍聴された方から委員会に寄せられたご意見・ご感想をまとめた資料を委員の方のみにお配りしています。

以上でございます。過不足あればお知らせください。

【委員長】 本日の主な議題は、前回委員会で検討した評価の枠組みについての確認と、これからの地域コミュニティ検討委員会の提言の振り返りになります。

まずは、議題1について、前回の議論を踏まえて作成いただいた資料を事務局より説明をお願い致します。

2 議題

(1) 報告事項

① 無作為抽出市民意識調査の報告

【事務局】 資料1「第4回評価委員会を踏まえた評価報告書における評価の枠組み(案)」をご覧ください。コミュニティ協議会によるコミュニティづくりについて報告書に掲載する際の評価軸について、前回の委員会で議論いただいた内容をまとめた資料になります。

左側に過去の評価委員会での評価項目を、右側に当評価委員会での評価項目(案)を記載しています。前回の委員会で、中項目を設けることとその項目についてご了承いただいたと思いますので、そのまま掲載しています。

前回、事務局よりご提案差し上げたルーブリック評価(評価基準を設けて工夫した点などを評価する手法)については、コミュニティ協議会のあるべき姿を限定する恐れや、評価項目を満たす義務を感じてしまうのではないかといったご意見がございましたので、ルーブリック評価は実施しないことに変更しました。そこで、各項目について、現状で行っていること、工夫している点、特筆すべき成果を記載するという事で報告書をまとめたいと考えています。

大項目4と5は、施設の指定管理に関わる部分ですので、現状や工夫点などを項目ごとに記載するのではなく、現在行っていることを別途記載し評価するのがよいのではと考えています。この点についての報告書のまとめ方については、次回の委員会でご検討をお願いしたいと考えております。

【委員長】 前回のご議論を踏まえて整理したものになりますので、ご意見などあればご発

言願います。

(特になし)

では、大項目4と5の扱いについては次回にご検討いただくとして、このように進めたいと思います。

それでは、資料2についてご説明をお願い致します。

② 地域別人口動態の報告

【事務局】 資料2「コミュニティセンター立地地域別人口動態」をご覧ください。コミュニティセンターの立地地域ごとの人口増減率と構成割合を、六つの世代(乳幼児、小中学生、若者世代、親世代、壮年期、定年後)に分類し記載しています。

増減率については、5年前から現在までと10年前から現在まで、それぞれ世代ごとにごのように増減しているかをまとめました。吉祥寺東コミュニティ協議会のエリアの場合、「0～5歳」の過去10年の増減率は14.0%となっていますが、これは10年前を100とした場合に現在まで14.0%増加したことを示しています。また、過去5年の増減率は-14.2%ですので、5年前を100とした場合に現在まで14.2%減少したことになります。表の右端には各世代の合計の増減率も記載しています。構成割合については、各世代が当該地域の人口に占める割合をまとめています。令和元年の人口において乳幼児が占める割合は3.3%、小中学生は6.7%ということを示しています。留意点としましては、武蔵野市のコミュニティセンターは市内の方どなたでもご利用いただけるため、各地域の数値は参考程度にご覧いただく必要がございます。

各地域の特徴を概観します。

吉祥寺東コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が8.4%、過去5年の増減率の合計が1.7%とどちらも人口増となっています。過去10年でも乳幼児、小中学生、壮年期、定年後が大幅に増加しているものの、過去5年では乳幼児が14.2%もの大幅な減少に転じ、親世代も減少しています。構成割合を見ると、令和元年の若者世代が17.3%であり、他地域と比較して若者世代が占める割合が最も高くなっています。

本宿コミュニティ協議会のエリアにおいては、吉祥寺東コミュニティ協議会と一部地域が重なっているため、大きな違いはありません。

吉祥寺南町コミュニティ協議会のエリアにおいては、増減率が過去10年と過去5年ともに合計で0.3%の人口増となっており、過去10年では乳幼児と定年後が大幅に増加しているものの、若者世代は大幅な減少となっています。

御殿山コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が10.8%で人口増、過去5年間では-0.3%の人口減となっています。過去10年では乳幼児、小中学生、壮年期、定年後が大幅に増加しているものの、若者世代は大幅な減少となっています。過去5年では小中学生が大幅な増加であるものの、若者世代と親世代は大幅に減少しています。構成割合を見ると、他地域と比較して壮年期が占める割合が最も高くなっています。

本町コミュニティセンター協議会と吉祥寺西コミュニティ協議会は地域がほぼ重なっているため、両方同時にご覧いただきたいと思います。本町コミュニティセンター協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が3.8%、過去5年の増減率の合計が4.2%とどちらも人口増であり、過去10年でも乳幼児、小中学生、壮年期、定年後が大幅に増加しているものの、若者世代が大幅な減少となっています。過去5年では乳幼児と小中学生、若者世代と壮年期が大幅な増加となっています。構成割合を見ると、本町と吉祥寺西ともに、他地域と比較して親世代が占める割合が最も高くなっています。

吉祥寺北コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が1.3%、過去5年の増減率の合計が0.1%とどちらも人口増であり、過去10年でも乳幼児と定年後が大幅に増加しているものの、若者世代が大幅な減少となっています。過去5年では壮年期が大幅な増加になっています。

中央コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が26.2%、過去5年の増減率の合計が10.3%とどちらも人口増であり、過去10年で乳幼児、小中学生、親世代、壮年期、定年後が、過去5年でも乳幼児、小中学生、壮年期、定年後が大幅に増加しています。構成割合を見ると、他地域と比較して親世代が占める割合が高くなっています。

けやきコミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が7.1%、過去5年の増減率の合計が3.7%とどちらも人口増であり、過去10年では乳幼児、小中学生、壮年期、定年後が大幅に増加しているものの、若者世代が大幅な減少となっています。過去5年では壮年期が大幅な増加になっています。

緑町コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が-0.2%と減少しているものの、過去5年の増減率の合計は2.5%と人口増に転じています。過去10年では定年後が大幅に増加しているものの、乳幼児と親世代が大幅な減少となっています。過去5年では壮年期と定年後が大幅に増加しているものの、乳幼児は大幅な減少となっています。構成割合を見ると、他地域と比較して定年後が占める割合が最も高くなっています。

西久保コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が7.1%、過去5年の増減率の合計が5.1%とどちらも人口増となっています。過去10年でも乳幼児、小中学生、定年後が大幅に増加しているものの、若者世代は大幅な減少となっています。過去5年では、乳幼児、小中学生、定年後が大幅に増加となっています。

八幡町コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が-1.3%、過去5年の増減率の合計が-1.6%とどちらも人口が微減となっています。過去10年では乳幼児と定年後が大幅に増加しているものの、小中学生と親世代は大幅な減少となっています。

関前コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が6.4%、過去5年の増減率の合計が4.2%とどちらも人口増となっています。過去10年でも乳幼児、壮年期、定年後が大幅に増加しているものの、若者世代は大幅な減少となっています。過去5年では乳幼児と壮年期が大幅な増加となっています。

西部コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が15.1%、過去

5年の増減率の合計が1.6%とどちらも人口増となっています。過去10年でも乳幼児、小中学生、壮年期、定年後が大幅に増加しています。過去5年では小中学生と壮年期が大幅に増加しているものの、乳幼児が大幅な減少となっています。

境南コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が8.9%、過去5年の増減率の合計が5.3%とどちらも人口増となっています。過去10年では乳幼児、壮年期、定年後が、過去5年でも乳幼児が大幅な増加となっています。

桜堤コミュニティ協議会のエリアにおいては、過去10年の増減率の合計が38.9%、過去5年の増減率の合計が2.4%とどちらも人口増となっています。過去10年で全世代が、過去5年でも小中学生と壮年期が大幅な増加となっているものの、乳幼児が大幅な減少となっています。構成割合を見ると、他地域と比較して乳幼児と小中学生が占める割合が最も高くなっています。

次は、資料2冒頭に戻って上半分の世代別に整理した表をご覧ください。上段には当該世代の人口構成割合の高い地域を、中段には当該世代の過去5年の増減率が高い地域を、下段には当該世代の過去10年の増減率が高い地域を、それぞれ比率が高い順に5地域提示した表となっています。

【委員長】 まちの変化を近隣の様子を見て理解するとよいとの考えから作っていただいた資料になります。何か質問・ご意見はございますか。

【委員】 非常に興味深く拝見しました。三つ伺います。

一つ目は、西部コミュニティセンターと桜堤コミュニティセンターとの共通地域は桜堤1～3丁目ですので、西部コミュニティセンターの比率から桜堤コミュニティセンターの比率を引いたものが境1～5丁目の比率になるとの理解でよいかを伺いたいです。

二つ目は、提示いただいた数字はどこで作っているものかを教えていただきたいです。

三つ目に、10年前に行った10年後の将来予測、5年前に行った5年後の将来予測と実際の差は分析できているかを伺いたいです。

【事務局】 共通地域については重なったまま集計しているため、西部コミュニティセンターの数値から桜堤コミュニティセンターの数値を引くと重ならない地域の数値が出せるわけではありません。

一つ目については、提示させていただいた数値は割合ですので、(母数の違う)数値を単純に引き算はできません。各地域の冒頭部分に提示した令和元年10月1日時点の人口の部分だけは、絶対数ですので、西部コミュニティ協議会のエリアの人口から桜堤コミュニティ協議会のエリアの人口を引き算すれば境1～5丁目の人口を算出可能です。

二つ目は、市の市民課が出しているデータに基づく数字です。

【委員】 毎年出ているデータですか。

【事務局】 毎月出ています。10月1日時点で比較したものです。

【委員】 三つ目が一番知りたい質問なのですが。

【事務局】 長期計画を作る際に4年ごとに人口推計を行っています。4年ごとに前回推計

からのずれの確認作業を行いますので、それが市全体としての検証になります。ただし、コミュニティ政策としては、分析できていません。

【委員】 これまで人口動態や小中学校の児童数や生徒数の分析などが行われていることを存じておりますので、せっかく作ったのならば、10年前の将来予測と実際との差の有無やその原因の分析ができれば、各地域のコミュニティにとっては有益だと思います。

【事務局】 人口推計を行っている会社にヒアリングをしたことがありますが、都道府県単位ならば人口推計の精度は上がるけれど、武蔵野市レベルではぶれが生じるようです。それを町目別に出すと、絶対数が少なすぎて予測としてほとんど意味をなさないとのことでした。

【委員】 予測が当てにならないからこそ、実際の数値の提示がコミュニティにとって有益です。地域社協の人と話していて、社協ごとにまとめた数値もあるとよいという話が出ました。

【委員】 明らかに突出した数字については、推定できる要因も記載していただくとよいと思います。例えば、桜堤・中央の小中学生の増減率などについてです。

【事務局】 今後書き込める部分は書き込みたいと考えます。桜堤・中央では、10年の間に大きなマンションの建設があったため、その影響かと思います。

【委員】 桜堤の過去10年の小中学生の増減率136.5%は突出しているのですが、5年たつて若者世代が急にマイナスになっていますので、ご説明いただければと思います。

【事務局】 桜堤の乳幼児については、過去10年の増減率が64.2%だったものが過去5年では-19.6%となっており、10年前から5年前までの間にマンションができて転入や出生があったのではと予測されます。その乳幼児も5年たつて次の年代にシフトし、また転入も落ちてきてきたことで、過去5年の増減率がマイナスに転じたのではと考えます。また、小中学生は6歳～15歳、若者世代は16歳～29歳と、年齢区分が均等幅ではないために、次の世代に吸収されたことで割合の増減に変化が生じたと思われる。

【委員長】 主にファミリー層の転入・転出と世代シフトが影響を与えていると考えられますが、昔から住んでいる人が多く移動が少ない地域もあり、様々です。この数値については、各地域の人が日常的な感覚と比較して活動の参考にいただければと思います。報告書にどう記載するかはご相談が必要かと思います。

【委員】 世帯数の動きは把握しているのでしょうか。

【事務局】 世帯数の数値はありますが、この資料には反映していません。

【委員】 世帯数があるならば、戸建てや集合住宅の別も含めて動態を把握してはどうでしょうか。

【事務局】 住民票のデータは市民課が持っていますので、純粋な世帯数の動態は把握可能なはずですが、戸建てや集合住宅の別は把握が困難です。

【委員】 外国人の住民のことも含めて、世帯数の動態をどのように把握されているのかが気になったため、伺いました。

【委員長】 地域の活動を検討する基礎データとなる資料ですが、他にいかがでしょうか。

【副委員長】 年齢別人口の構成割合をみると、どこも壮年期以上の割合が過年度よりも増えているので、高齢化しているのだと読み取っていいのでしょうか。10年前と比較して若い世代はトントンか少し減っている実感もあります。この資料は高齢化の一つの証明になるのでしょうか。

【事務局】 市全体としても高齢化率は上がっています。一方で、若年層の人口もマンション建設の影響で増えており、ファミリー層も増えています。割合で見ると高年齢層が増えているのは間違いなく、これについては地区の偏りはあまりないと感じていますので、地域をイメージするうえで使える資料かと思います。

【委員】 表にまとめていただき、わかりやすく非常によい資料です。減ってしまったところを各コミュニティ協議会がみて、取組に繋がるとよいと思います。

【委員長】 資料を活用していただければよいと思います。自治体によっては、We上で住民がこのようなデータを取得できるサービスもありますが、誰もが活用できるとは限らない難しいデータでもあります。コミュニティには有益なデータですので、今後武蔵野市も考えていただけたらと思います。

(2) 武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会 提言の振り返り

①地域フォーラムについて

【委員長】 平成26年度に「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」が開催され、私も関わって、市への提言を行いました。提言を受けてからの5年間で市や協議会が行った取組について、当評価委員会で振り返ってみたいと考えますので、事務局から資料の説明をお願い致します。

【事務局】 資料3、資料4、当日配布の「主要事業「つどい」」をご用意いたします。

まずは資料3「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会 提言（概要版）」について説明致します。武蔵野市のコミュニティ構想が48年前にできました。その間、コミュニティ協議会が中心となり市のコミュニティづくりを担っていただいています。そして、時代変化によって生じた様々な課題について、節目ごとに「コミュニティ市民委員会」を設けて解決方法をご議論いただき、解決できたものと課題として残っているものなどをまとめていただけてきました。「これからの地域コミュニティ検討委員会」もその流れをくむものと理解しております。

資料3裏面の記載にありますとおり、「これからの地域コミュニティ検討委員会」では大きく四つの課題をご指摘いただきました。一つ目が、コミュニティづくりの認知と連携の不足です。当該委員会にあたってのアンケート結果から、コミュニティセンターの運営が住民によって行われていることの認知度が低かったこと、コミュニティ協議会以外の活動団体との連携が不十分であったことから取り上げられました。二つ目が、コミュニティにおける複雑な区域設定です。コミュニティ協議会の区域設定が学校区や様々な活動団体の活動区

域と一致していなかったことから取り上げられました。三つ目の気軽に集いやすいコミュニティセンターづくりについても、まだ不十分との見解から取り上げられました。四つ目には、地域活動の担い手の固定化や高齢化も課題として取り上げられています。

当該委員会からは、これらの課題に取り組むために、協議の場として「地域フォーラム」を設けてはどうかという提言をいただきました。従来のコミュニティと、提言が目指すこれからのコミュニティについて、資料下段の左右にイメージ図でお示ししてあります。従来図では、コミュニティ協議会の上で目的別のコミュニティが各々活動している様子が示されていますが、右側の図では、フォーラムを設け地域の課題を共有する様子が示されており、これによって効果的に課題に取り組めるとのご提言でした。

資料4と当日配布の「主要事業「つどい」」をご覧ください。資料4は、提言後に開催された地域フォーラムについてまとめたもの（一部、提言前開催のもの含む）で、全部で44の地域フォーラムがあります。「主要事業「つどい」」は吉祥寺東コミュニティ協議会の事業になり、地域フォーラムとうたっていないものの同等に位置づけてよい内容と考えられるものをまとめたものになります。両資料から、様々な地域フォーラムが開催されたことがわかります。

資料の説明は以上です。

【委員長】 当時関わっておりました私からも補足させていただきます。行政上の必要からコミュニティ協議会以外にも防災や福祉などの団体が作られ目的別に活動するようになり、ベースとなるコミュニティ協議会とそれらの団体との連携がうまくいっていない点が当時課題として意識されていました。そこで、目的別のコミュニティと、コミュニティ協議会が特定の課題について連携できるような仕組みを作っていくことが提言されました。はじめはコミュニティ協議会が協議の場づくりの音頭を取ればよいのではないかと思ったのですが、住民の皆さんから「そんな大変なことはできない」と言われました。ならば、課題を感じている団体や行政が声をかけ、地域で共に考える場であるフォーラムを開催して課題解決にあたってはどうかということになりました。

当評価委員会では、実際にそのような趣旨でこの5年間進んだかどうかについてご意見をいただきたいと思います。まず、事務局の説明についてご質問があればお願い致します。

【副委員長】 とても大事な提言ですが、あまり浸透していないと思います。コミュニティセンター関係者であっても、本当に理解して実現に向け努力しているか疑問が残ります。

ただ、研連の定例会で、地域フォーラムを行ったり予定したりしているコミュニティ協議会の報告が項目化した頃から、各コミュニティ協議会では地域諸団体との協議の必要性が認識されるようになり、活動が活発化してきたと思います。吉祥寺西コミュニティ協議会では、「地域懇談会」を平成20年頃から行っていたものの、多くの人は地域懇談会の意義がわかっていませんでした。ところが、地域フォーラムが出てきたことで地域懇談会もその一つだと認識し、地域諸団体との協議の必要性の理解が進み年2回の開催が定着しました。吉西福祉の会で開催していた防災祭りも、もっと地域の祭りにしようと協議し、2年前から多く

の地域諸団体に関わっていただく祭りに変わりました。残念ながら過去2回は台風で中止となり、今年初めて開催でき、成果として残せました。

提言では行政の役割についてもまとめてあり、地域フォーラムへの参加などと書かれています。あまり行政の意識が高いとは思えません。防災や公共施設等総合管理計画に関する意見交換会は行政がイニシアティブをとって行ったものだと思いますが、今後は地域フォーラムにおいて行政がもう少しリーダーシップを発揮していただかないと、他分野の団体を集めにくいと感じています。

【委員】 図の違いについて把握しきれていないため説明をお願いしたいと思います。変えようとした背景には、地域団体がそれぞれ抱えている課題を共有しようという以外にも、コミュニティセンターに集中しているコミュニティに関する負担軽減もあるのでしょうか。

【委員長】 事実上テーマごとに諸団体が活動を行っている状況でしたので、それにコミュニティ協議会が関わらないのは問題だろうということでした。しかし、負担の増加も問題ということで、中心は情報共有で、その過程で分担の整理もできればとの考えでした。

【委員】 左右の図でコミュニティセンターとコミュニティ協議会の上下が逆になっているのは何か意味があるのでしょうか。

【委員長】 特に意味はありません。あえて言いますと、左図は諸団体が活動の場所としてしかコミュニティセンターを使用していないけれど、右図は活動の交流含めてもっと協議会と関わることを意図したように思います。

【委員】 右図でコミュニティ協議会と諸団体とが太い矢印で結ばれているのは、両者が情報共有している様を表現しているのでしょうか。

【委員長】 かつてのコミュニティ協議会と諸団体とは、コミュニティセンターを利用するだけの交流だったものが、地域全体をまとめる協議会として諸団体とベースを一致させるべきとの考えから、方策として課題ごとに地域フォーラムを設けて情報交換していく様子をイメージとして示したものと理解していただければと思います。

【委員】 左図はコミュニティセンターと諸団体とがそれぞれ行政と矢印で結ばれていますが、右図は地域フォーラムと行政が結ばれています。会議体である地域フォーラムに行政とのやりとりの機能があるということでしょうか。

【委員長】 かつては、行政の個々の部局が個々の目的別団体と連絡を取っており、それをコミュニティ協議会があまり把握していなかった点に問題がありました。そこで、提言では、各団体とコミュニティ協議会が情報共有するとともに、行政も部局の横の連携を図って地域フォーラムの中に対等に関わることを意図したのだと思います。ただ、副委員長が指摘なさった問題は現在も残っているかもしれません。

【委員】 (資料4では) 各種地域フォーラムは単発で開催されているように見受けられます。地域フォーラムが定期的実施されて行政と情報交換できていないと、提言の図は成立しないのではないかと感じました。

各コミュニティ協議会の現在の区域人口は1～2万人程度です。48年前はもっと少なか

ったと思いますが、コミュニティ協議会がコミュニティ構想の担い手として前面に出てしまっても負担の軽減はできるのでしょうか。今のご説明をうかがうと、扱う情報が増える懸念もあると思いました。コミュニティ協議会の負担を分散し共有する方法を今後検討できるとよいと思います。

【委員】 それを負担と考えるか、コミュニティ協議会が地域の課題として包括的にとらえていけるかだと思います。資料4の17番をご覧ください。研連のお申し出を受けてすべてのコミュニティセンターで公共施設等総合管理計画に関する意見交換会を開催しており、吉祥寺東では2回実施されています。31番の武蔵野の保育を考えるというフォーラムは撤退事業者が発生したために開催しましたし、43番のような「特殊詐欺」についての会議も開催しました。当日資料でお配りしました吉祥寺東の「つどい」はコミュニティセンター開館前から行っている事業で、地域課題も多く扱っており、市からはゲストスピーカーでお越しいただくことも多く、「ゆとりえ」にもご参加いただくことがあります。このように、様々な立場の方が参加する場において、地域の課題をどう考えるかが重要だと思いますし、吉祥寺東では長年取り組んできたことを知っていただきたいと思います。

ずっと以前には、コミュニティ協議会の「ネットワーク事業」が行われている時期もありました。吉祥寺南町と本宿と吉祥寺東では現在も3コミュニティ協議会でネットワーク事業を組んでいます。今後は地域フォーラム以外に、コミュニティ協議会間のネットワーク事業も必要と考えます。

【委員】 研連では、コミュニティ協議会に対して、地域フォーラムと名がつかないものでも同等の活動をしていれば報告していただきます。

私も検討委員会に関わっておりました。コミュニティ協議会は拠点や資金があり、地域のまとめ役として働くのがよいという、委員長とおなじような考えでおりました。ただ、他のコミュニティ協議会の方から負担が大きいとの声があり、このようなかたちになりました。実態としては、コミュニティ協議会が主体として地域フォーラムのような会を開催している例がほとんどであり、他団体にあまり地域フォーラムが浸透していないと感じます。けやきコミュニティ協議会では来年1月にも諸団体をつないでどんと焼きを実施します。一大イベントとして地域の方にも楽しんでいただいています。防災の会を立ち上げた際も福祉の会や地域の諸団体をつなげる活動を行ってきました。このような活動が増えていくと地域はよくなっていくと思います。

【委員】 資料4を見ると、行政が関わっているものが地域フォーラム、というイメージがあったのではないかと思います。しかし皆さんのお話を聞いて、地域フォーラムという名前がつかなくても同等の活動をしているのだと思いました。吉祥寺東の「つどい」資料を拝見すると、納涼のつどい、吉祥寺の美食を語ろう、などの柔らかいものから、新設予定の公園についての堅いものまで、地域の方々が関わって活動されていることがわかります。そこまではもうできているのですから、今後は、それをどう表現していくか、目的別の団体の人にどう周知するかが課題だと思います。

行政の役割はコミュニティ活動の支援である点も押さえてやっていきたいと思います。

【委員】 納涼のつどいは、市報の最終面と、コミュニティセンターだより、ポスターなどで周知しました。開催結果は、次回のコミュニティセンターだよりに掲載しています。その結果、地域住民のみならず吉祥寺南や吉祥寺北など他地域からもご参加いただきました。多くの人が来てくださるかどうかは、市報の最終面をどれくらい見てくれるかに尽きると思います。また、コミュニティセンターは市の課題について語り合う場を提供するものだと思います。

提言の定義に基づくと、地域フォーラムのハードルが高くなってしまっていると感じています。去年は地域フォーラムとは称さずに教育シンポジウムという名称で開催した会もあります。

【委員】 コミュニティ構想と自主三原則ができ、これからは市民が自由に活動してよいのだと燃えていた時期もありましたが、数十年が経過してみますと、むしろ自主三原則が壁になって行政が発言をためらっているように思います。行政にも、もう少し対等な立場で発言をしていただきたいと思います。

【委員】 コミュニティとパートナーシップの違いがあると思っています。行政にもっと担ってもらいたいという意見はありますが、住民自ら日常の課題を解決している状況を拝見しますと、行政の関わりのいい塩梅が難しいとも感じます。関わり方はこれからも課題になると思います。

【委員】 そうしますと、行政から市民への情報提供や基本的な考え方がうまく伝わらなければならないと思います。今後の構想についても、リアルタイムでの情報がうまく伝わっていないと感じます。具体的には、自治基本条例をどのように考えているのか教えていただきたいと思っています。話し合いの場に行政に加わっていただくにしても、聞き役ではなく、住民やコミュニティ協議会の声に応えてくださるような関係性が必要だと考えます。自治基本条例や議会基本条例を裏付けとして、行政や議会が両輪となってコミュニティとの関係が築けると良いと思います。

【委員】 議題の目的は振り返りで、提言を書き換えるのではありませんよね。

【委員長】 そのとおりです。提言後の実際がどうなのかを議論いただくことが目的でしたので、地域フォーラムについて今いただいた様々なご意見こそが、検討委員会の評価だと考えます。

【委員】 ここにいらっしゃる委員の皆さんは本当に意欲的ですが、コミュニティ内には一部そうではないところもあります。行政にももっとコミットしてほしいという声が出ていますので、役割分担を見直さなければならないかもしれません。負担の集中という課題もありますし、自主三原則のもとにやっていくという自負にこだわりすぎるとうまくいかない点も出てくると思います。近い将来、どこかのコミュニティ協議会の担い手がいなくなることも考えられます。そこまで見据えて、先に手を打つことも必要だと思います。

【委員長】 当初の意図としては、話し合いの場を持たないと意思疎通ができないだろうということでした。それについては、日常からなさっていたと今日わかりました。

ねらいとしていたことで、もう少し進めばよいと思うことが2点ほどあります。1点目は、この場を使って行政がコミュニティ協議会や諸団体に対してやってほしいことを発言した場合に、自分たちでできることと、行政に責任を持ってほしいことをうまく分担し、なおかつ、コミュニティ協議会と諸団体も相談しながら分担を整理できるとよいということです。

もう1点は、行政がやってほしいことを声に出す必要があるということです。そこではじめて、やれるかどうかを調整して負担を軽減することが望ましいと考えます。お話をうかがっていますと、コミュニティ協議会では取組が想定以上に進んでいるものの、諸団体や行政は地域フォーラムの活用が進んでいないように感じました。

例えば、公共施設等総合管理計画に関する意見交換会など明らかに行政の必要から開催をお願いしている話し合いの場において、行政は、やってほしいことをコミュニティ協議会等と調整して負担なく役割分担できたのでしょうか。教えていただきたいです。

【委員】 意見交換会形式では、いただいたご意見の計画への反映や施設へのフィードバック、行政の各部局の出席者との意見交換など、その中ではうまくいっていると思います。ただ、開催までのプロセスにおいて、行政、コミュニティ協議会、諸団体のうちどこが発信していくかに課題があるように思いますので、内容と開催までのプロセスとを分けて議論すべきと考えます。

【委員】 公共施設等総合管理計画に関する意見交換会の開催は、確かに行政から依頼を受けました。施設一体型小中一貫校の話し合いについても、研連を通して依頼がありました。地域社協の設立までには2年かかりましたが、3コミュニティ協議会から一人ずつ代表を出して副会長とする取り決めでスタートしましたので、当初から3コミュニティ協議会一体となって進むことができました。防災に関しても、コミュニティ協議会からではなく諸団体からの声かけで話し合いの場をつくろうという動きも見られます。醸成期間を経てやっこのような動きが出てきたという実感です。

【委員長】 ずいぶん様子がわかってきました。地域フォーラムを通じて、特定の地域課題にむけて各自の役割分担の練り直しまでできるとよい気がします。現在はそこまで到達していないものの、意見交換や情報共有の面では、実績が上がってきていることがわかりました。

行政では、事務局を担当していない部局の職員は、使える仕組みなどをあまり認識していないように思います。異なる部局の経験など、仕組みの認知を向上させることで、行政内からも新しい動きが生まれるかもしれません。

行政には部局ごとに抱える課題が必ずありますので、話し合いの場を通じて、コミュニティ協議会、諸団体ができることを広げていけるとよいと思います。

では、次の課題に移りたいと思います。

②コミュニティ未来塾について

【委員長】 説明会を行っていたところ、地域活動をする中での学びの場を行政が確保して

くれないと進まないという市民の声があり、提言で新たに行政の役割として打ち出したものです。これに関して、提言以降に行ってきたことについて振り返り、評価したいと考えますので、コミュニティ未来塾を例として、事務局からご説明をお願い致します。

【事務局】 コミュニティ未来塾は、コミュニティ研究連絡会と市の共催事業です。市民が地域の課題に自ら取り組む力をつけるため、協議の場（地域フォーラム）を運営する力をつけるためには、行政が「学び」の場の確保をすべきとの提言を受けて生まれた、資料3の「行政の役割⑤」に関する事業です。平成28年度に初めて実施しました。1期ごとに4～5回の講座形式で行い、5期実施しました。資料5は、第1期の報告書になりますのでご参照願います。

第1回「地域の姿を考える／参加者同士のつながりづくり」、第2回「コラボ・協働を生み出す対話術」、第3回「地域を盛り上げるイベントの企画・集客・運営」、第4回「多様なつながりのコーディネート／実践に向けてのキックオフ」ということで行いました。

今年度は、「地域フォーラムを開催する力をつける」という当初の目的に基づき、これまでの受講生に集まっていたいただき、地域フォーラムの開催に向けて動いてもらっています。12月に「プレ地域フォーラム」を開催し、本番の「地域フォーラム」は年明けに開催する予定です。

コミュニティ未来塾の受講者の活動の例として用意したのが、「地域活動をしている人たちにスポットライトを当てるWebメディアを作りたい！」というチラシです。地域活動を行っている人にインタビューをした内容を、ネット上に公開するという活動が出てきています。資料の説明は以上です。

【委員長】 提言に沿った、行政としての取組を報告いただきました。これらの取組の成果について、ご意見を頂きたいと思えます。

【副委員長】 かつて、研連には「あり方懇談会」というものがあり、コミュニティ協議会から委員が選出され、コミュニティセンターに関するいろんな勉強ができていました。そのような場は非常に重要です。

地域フォーラムの開催にはコーディネーターが必要という問題意識から、その育成をするためのコミュニティ未来塾が企画されていると理解しています。最初のころは、各コミュニティ協議会から2名程度、強制的に参加するような仕組みだったかと記憶していますが、最後の方になると、内容面でもコミュニティ協議会から離れてしまった印象を受けました。

コミュニティ協議会関係者が学ぶ場は重要だと考えているので、取組自体は今後も続けてもらいたいと思いますが、内容については、もう少し焦点を合わせて欲しいと感じます。あまりに開かれた講座としすぎると、目的がぼやけてしまう気がします。コミュニティ協議会にとって、フィードバックが得られるような人材育成になると助かります。

【委員】 当初、未来塾の立ち上げの際には、「コミュニティセンターの担い手のスキルアップの場があるとよい」、「コミュニティセンターの新たな担い手の育成につながる」という話があったと思います。しかし、現在のコミュニティ未来塾は、少しコミュニティセ

ンターとはかけ離れてしまったと感じます。

コミュニティ未来塾の卒業生で、その後コミュニティ協議会の運営委員になった人は一人もいないのではないのでしょうか。もう少し、コミュニティ協議会に目を向けた取組となるといいと思っています。

【委員】 コミュニティ未来塾の取組は素晴らしいと思っておりましたが、今のご意見を聞くと、設立趣旨は運営委員のスキルアップに限定したものであったのでしょうか。個人的には、それに限らないものかと認識しておりました。

【委員】 検討委員会の段階で、そのような意見があったということです。

【委員長】 提言の内容は、市民が協議会を中心としてコミュニティ運営をしていくには、学びの場が確保されていなければならない、そのためにはある程度行政が学びの場を用意する必要があるというものでした。その時点では、コミュニティ協議会に限ったものなのか、それともコミュニティ活動に関わる人を広く対象にするものなのかは明確になっていませんでした。今出たご意見は、対象を広げたとしても、コミュニティ活動を行う人の学びの場であってほしいということでしょう。コミュニティ活動以外の活動まで範囲を広げると、趣旨が異なるということだろうと理解しています。実際の未来塾は、コミュニティというよりはもう少し広い興味を持つ人が集まるようになってきていると感じます。

コミュニティ未来塾を、協議会委員の研鑽の場に限定する必要はないと思いますが、ある程度コミュニティ活動に関連したものにしたほうが良いということではないのでしょうか。

【委員】 コミュニティ未来塾に何回か参加しましたが、協議会の運営委員以外の人も参加しているからよいものになったと思います。協議会委員だけの場であれば、もっと学びの内容が限定されてしまったでしょう。結果として、未来塾の卒業生はコミュニティセンターの運営委員になっていないかもしれませんが、広く捉えると、コミュニティを支える人材の育成にはつながっているのではないのでしょうか。

【委員】 1期には出ていませんが、何回か未来塾には参加しました。実感としては、参加者の目的は皆バラバラで、それまで全くコミュニティセンターを利用したことがないという人もいました。何か自分もコミュニティ活動に参加できるのではないかと期待をもって参加する人、すでにコミュニティ活動を行っているけれど、スキルアップとして参加する人など、実に様々でした。また、コミュニティ協議会から参加された方は、自らのスキルアップに加え、外の人達を知りたいという目的もあったのではないかと思います。

参加者の目的が多様であったが故に、内容がやや散漫になってしまったことは事実だと思いますが、特に初めてこういった活動に参加した人からは、好意的な感想も頂いております。ただ、その先の活動にまでつながらなかったことは、反省点だと感じています。

【副委員長】 未来塾の卒業生が、今どのようになっているのか個人的に知りたいと感じます。本日卒業生の活動についてのチラシが配布されましたが、卒業生で活躍している人がいることは素晴らしいと思います。

【委員長】 一般的に、行政の用意する講座等は、受けて終わりにになってしまう点が課題と

言えます。コミュニティ未来塾についても、そのような課題が残ってしまいましたので、今回の議論を踏まえて検討をしていただきたいと思います。まだ始まって数年の取組ですので、少しずつ進捗しつつも、見直しを行わなければならない時期かと思います。

ただ、提言に関わった立場として、特に地域フォーラムについては、思ったよりもたくさん取組が行われていると分かり嬉しく思います。

3 今後のスケジュール

【事務局】 次回の評価委員会は、2月20日（木曜日）午後2時から、場所は本日と同じく、武蔵野市役所413会議室での開催となります。

【委員長】 長時間にわたりありがとうございました。これで閉会とします。

4 閉会

以上